

# 多摩デポ通信 第19号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2011年7月17日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三二・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail [depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

## 定期総会開かれる 多摩デポは4年目に

5月29日(日)、国分寺労政会館で2011年度通常総会が開催されました。会員数105名(個人会員102名と団体会員3団体)ですが、出席者24名、委任状提出者44名で、定足数53名を上回っての成立でした。冒頭、座間理事長からは「法人として4回目の総会を迎えられた。各方面の協力・支援により足跡を残してこることができた。『多摩

デポブックレット』も5号になる。東日本大震災によりいろいろなことが起きており、共同保存に関しても新たな意義や課題が見えてくる。東京都立多摩図書館の移転に向けた考え方については打開を図らなくてはならない。今年の秋に全国図書館大会が多摩地域で開催されるが、資料保存分科会について企画の段階から参加している。まだまだ共同保存図書館は実現していないが、地道に活動を進めていきたい」と挨拶がありました。

2010年度事業報告では、前年度の日野市に続

## 第11回・多摩デポ講座

# 図書館人としての被災地支援

## ～ 被災地幼稚園で水戸黄門を歌う園児 ～

日本図書館協会の被災地図書館支援隊の全日程に参加されてきた矢崎さんによる報告。図書館はどうなっているか、どうなるか、深刻なことはたんとと、何かを代表することなく語りたい。でも図書館という事業にとって改めて、被災することは、特別なこと！

**7月31日(日) 午後2時～4時30分**

講師：矢崎 省三氏 (元東京農工大図書館司書)

会場：国分寺労政会館 地下1F第1会議室

(国分寺駅南口徒歩5分) 国分寺市南町3-22-10 TEL: 042-323-8515

参加費:500円 定員:50人 (事前申込優先) 申込はメールかFAXで

主催：NPO法人共同保存図書館・多摩

NPO会員でなくても、どなたでも参加できます

き、立川市の保存資料検索作業の一部を行ったこと。『多摩デポブックレット』の3号、4号の発行などが報告されました。次に決算報告、監査報告が行なわれ、承認を得ました。

次に2011年度事業計画案及び予算案が審議されました。①共同保存図書館の必要性の気運の醸成、②「多摩地域最後の2冊」の代行検索の引き続いての実施、③「里親探し」事業の普及拡大、④多摩デポ講座等の開催、⑤「横断検索マニュアル」の充実、⑥「館長協議会報告書」および、発行されたばかりの東京市町村自治調査会の「多摩地域の図書館の今後を考える」報告書の分析、⑦全国図書館大会の取り組み、⑧『多摩デポ通信』『多摩デポブックレット』発行、「図書館総合展」への出展、などの事業を提案し、予算と共

に承認されました。

東日本大震災では数多くの図書館と資料が被災しており、資料の共同保存に取り組んできた「多摩デポ」にとつて、図書館の被災は様々のことを考えさせる。被災と復興は現在進行形の問題だ、と、『多摩デポ』でできることを今後考え支援活動を行っていくことも提起されました。

最後に、役員人事を諮り、



津野海太郎理事の退任、手嶋孝典理事の新任、岡田貴子監事の退任、浴靖子監事の新任が承認されました。会の発足当初から尽力いただいている津野海太郎さんには顧問への就任をお願いし、黒子恒夫さんとともに、会として今後は二人の顧問を戴くことになりました。

総会に引き続き、津野海太郎さんの記念講演「図書館の電子化と無料原則」を行いました。話題の電子書籍の問題を独特の大きな視点から解いて、余韻の残るお話でした。講演会には、非会員を含め34名もの方に参加いただきました。(内容紹介は、次ページに書いていただいた奥山さんの文に譲ります。)

その後、三陸の被災地に、日本図書館協会の被災地図書館支援隊の活動で行って来た齊藤事務局長から、現地での画像を投影して、心

情あふれる短い報告がありました。

総会・講演会終了後、場所を移しての懇親会にも多くの参加がありました。降り続く雨に閉じ込められ、しかし会場に恵まれ、日ごろの想いや新年度の活動計画についてなどを語り合い、新鮮な懇親と交流を深めました。

『出版ニュース』  
2011年7月上旬号の巻頭に

「共同保存図書館・多摩 三  
年間の歩み」座間直壯

理事長の論文が掲載

## 津野海太郎氏講演

### 「図書館の電子化と無料原則」を聴いて

新潟県立図書館

奥山 智靖

図書館の電子化と無料原則との関わりは何だろう。そう考えながら津野氏の話聴いた。

まず津野氏の無料の原則に関する解釈は、日本国内の公共図書館員や利用者（国民）から積極的に求めたわけではない、アメリカ国内の図書館思想の受け売りであるという点に着眼点がある。そこには売り買いの社会との乖離という思想的バランスをはらんでいる。次に図書館の外と内に目を向けると電子化と有料化の動きがある。実際に欧米には電子書籍を無料で利用させようという反グループ

ル・反アマゾンの動きがある。無料のインターネットによるアーカイブの動きなどその最たるものだろう。そうした動きは今日まで積み重ねられてきた欧米社会における知的財産を育んできた流れの延長線上にある。この無料の原則、実はアンダロサクソン系では定着し



ているが、カトリックの思想によるイタリア（都市国家の伝統も根強い）やスペインといったラテンの国々にはあまり浸透していない。韓国や中国においても然り。日本においても、戦前までは旧帝国図書館も含めて100円か200円を徴収していた有料の施設だったのだ。

公共図書館の役割は、人々への娯楽の提供も大事だが、同時に地域住民に自発的教育の機会と道具を提供してきたいわばパブリックドメイン形成のための大切な存在であるのだ。だからこそ本（電子書籍）の非商業化・非製品化という枠の中で公共図書館が果たすべき役割は大きい。そこがまた生涯学習という観点で学校教育・学校図書館の役割とは大きく違っている点だとも津野氏は説く。本・雑誌の電子化の動きは今後ますます加速していくし、

誰にも止めることはできない。その電子本をいかに公共図書館へ無料提供しているかその知恵が試されていると津野氏は指摘する。

そもそも本には2つの意味合いがあると津野氏は言う。本は一面で「商品」であってそれで生計を立てている出版産業というものが存在する。と同時に本を「公共資産」とみなした時に本は文化資産となりパブリックドメインとなる。自著『電子本をバカにするなかれ』（国書刊行会）中にも書いたことだが、読みたい本あるいは読まねばならない本を全てお金を出して買わないといけないとなったら、当然全ての必要な本が買えなくなり、社会の質が下がることよって本の売れ行きも下がりが出版産業も成り立たなくなるといふ負のスパイラルに陥りかねないことと津野氏は危惧している。

現役公共図書館員としての関心は、とりわけ最初の部分にある。無料の原則が日本人お得意の欧米思想を形だけ持ち込んでその精神が根付いていないのだとしたら、現役公共図書館員の中から図書館有料化の動きに与する者が現われたとしてもおかしくないのだ。

津野氏の持論は『電子本をバカにするなかれ』や『図書館雑誌』6月号により詳しく出ているのでご覧いただきたい。

たまたま津野氏の講演に遡ること数日前、アカデミック・リソース・ガイドの岡本真氏による「電子書籍で変わる図書館サービス」という講演を聴く機会にも恵まれた。津野氏も岡本氏の関わる **saveMLAK** について一定の評価と期待を込めているようだが（『図書館雑誌』6月号を見る限りは）、岡本氏は電子書籍の本質は

全知への横断的アクセスにあつて、デジタル化・ウェブ化・オープン性のうち、現在3つ目のオープン性がプラットフォーム（基盤）競争によって昨年来問題になっていると指摘していた。そこらあたりもこれからの電子化時代を公共図書館が生き抜く鍵になるのではなからうか。

『季刊本とコンピュータ』をリードしてこられた津野海太郎氏の肉声を初めて聴く機会を得た。また、『ず・ぼん』でかかる問題を取り上げてこられた齊藤誠一氏、堀渡氏ら関係者のご尽力に感謝したい。

なお、余談になりますが、懇親会の行われた国分寺駅南口の「時季のしずく」さん、多摩デポと縁の深い黒子氏のご息が経営にあたられていてということで大変おいしい料理やお酒にめぐり合うことができました。

## 東大和市立図書館

### 保存資料の多摩地域重複所蔵調査が始動

#### 自宅で検索する

#### ボランティア募集

多摩デポでは、一昨年は日野市の一冊本調査（その市では最後の一冊の保存蔵書が、多摩地域の公立図書館全体の中では、それぞれ何冊残しているのかを調査し、今後は多摩地域全体で最後の二冊まではストック出来るようにする、そのための調査）を行い、昨年度は立川市図書館から同様の調査を依頼され、会員外の方も含め、検索ボランティアのご協力のもと、取り組みました。

今年度は、東大和市から調査依頼があり、先日の理事会で事業として取り組むことを決定しました。今回の冊数は約4千冊で、期間は8月末

までを予定しています。

今年度も検索ボランティアとして参加して下さる方を募集します。自宅のパソコンでインターネットの横断検索ができる環境があればどなたでもできる作業です。

作業内容は多摩デポからお送りする、書誌事項が書かれた東大和市の除籍候補資料リストの本について、都立図書館サイトにある「東京都公立図書館横断検索」を行うものです（作業マニュアルも別途用意）。

氏名、電話番号、メールアドレスを明記の上、事務局までメールで申し込んでください。作業の時期、件数などはお申し出により調整可能です。

皆さまのご応募をお待ちしています。

応募先メールアドレス..

[depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

## うちの書庫事情

### 東大和市立

### 中央図書館の場合

### 東大和市立中央図書館

蓑田 明子

1984年に開館した当時、多摩地域最大規模を誇った当館の書庫は約400㎡で約7・6万冊の収蔵能力です。2階事務室の隣りにあり、二層式のため、利用者の依頼で上層に取りに行く時は、1階の開架室からは3階までを駆け上がることとなります。

私が開館時に見学した時はガラガラだった書架が、3年後に就職した時には8割近くが埋まっていて驚いたものです。

それから約四半世紀。現在は市内小学校の余裕教室2教室を借りていますが、それでも中央図書館の書庫



は文字通り足の踏み場もないほどに本に埋もれています。その数は現在、約15万冊と設計時のちようど2倍を詰め込んでいます。当然、書架には収まりきらず、写真のように書架の前の箱に立てています。本が痛むのが心苦しいのですが、背文字が見えないと探せないで、仕方なくこの形です。

何年も前、まだ都立図書館の職員が協力車に同乗していた頃、書庫を見て、「本を捨てない執念を感じる」とまで言われました。

そうは言っても詰め込む工夫は限界があり、毎年1万冊近くを受け入れるためには、同じ冊数を除籍しなければなりません。

当市は除籍作業に手間をかけられないことと、自治体規模、蔵書規模から貴重書は多くないだろうと判断して、都立や多摩地域内の所蔵状況を調べずに、当市での必要度で判断してきました。

除籍対象外とするのは、電話とFAXが通信手段だった頃の相互貸借のツール「探しています」で、当市しか所蔵していなかったもの、ISBN総目録作成時の独自データ（都立が当市しか所蔵がないと思われるデータを通知してくれたもの）だったもの、多摩地域市町村立図書館長協議会で保存対象と指定されたものです。電算関係やJISハンドブックは、軒並みこ

の基準により、当市での利用が見込めなくても保存せざるをえません。

今回、検索ボランティアを依頼したのは、こうした事情があります。東京市町村自治調査会の「図書館のあり方に関する調査研究報告書」によると、自治体内で最後の1冊かどうかを確認している自治体が50%、都立を確認している自治体が6・7%、多摩地域を確認している自治体が30%というのに、当市は自分の自治体内最後の1冊を保存するゆとりさえありません。受入れ時から売れ筋でなければ、複本での購入をしないことも一因です。

そんなわけでボランティアの皆さんの力をお借りして、これからの除籍手順の見直しのヒントが得られればと考えています。よろしくお願いいたします。



## 矢吹町図書館での 支援活動に参加して

中澤 和男

6月30日から7月1日の2日間、福島県中通り南部に位置する西白河郡矢吹町図書館でのボランティア活動に参加しました。日本図書館協会の東日本大震災の復興支援活動「Help Toshokan 図書館支援隊」の一環です。「多摩デポ事務局」が中心になった呼びかけによります。6月30日午前7時過ぎ二台の車で六人が、西国分寺駅前出発。阿部明美、齊藤誠一、矢崎省三（運転）同乗車と田中ヒロ、吉田光美、中澤和男（運転）同乗車で、調布ICから高速道に乗り佐野SAで休憩、その後矢吹ICで降り、10時半頃矢吹町図書館到着。図書館の菊池秀子さんから

作業手順を教えていただき作業開始。多摩組の他に岡山から高速バスでやってきた衛藤広隆さん（参照↓ブログ「白河紀行」<http://www.15.ocn.ne.jp/~kazeiki/touhoku02.html>）、千葉地域から車で駆けつけた石倉雅子さん、藤本重樹さん、叶多泰彦さん（運転）と一緒に作業しました。矢吹町は福島県中通りに位置する総面積約六〇・三七平方キロメートル、人口一万八千人余の町です。3月11日には隣接する鏡石町などとともに、津波にこそ襲われませんでした。したが、地盤のひび割れ・陥没、建物の損壊・倒壊など大きな被害がありました（各町のHP参照）。蔵書約五万五千冊を有する矢吹図書館でも、書架が倒壊し図書が散乱するとともに室内照明の蛍光灯が落下し破損してガラ



ス破片が飛び散るという事態になりました。大震災後急ぎ復旧に努め、6月1日に一部開館に至りました。しかし、ガラス破片にまみれた約五千冊の図書については福島県立図書館に相談した結果、1冊ごとに1ページずつめくりながら刷毛で払い落とすことになりました。作業は極めて単純ですが、根気と手間を要します。人手も必要です。矢吹図書館は「N

PO法人ふれっしゅ・すてーじ」が指定管理者として運営しているのですが、日常業務を再開しながらの迅速な処理作業に苦慮されていたようです。そのような状況を日本図書館協会が聞き及び今回の支援活動になりました

今までにない作業内容なので、「多摩デポ」事務局の吉田さんは製図用刷毛5種、阿部さんは糊用刷毛1種を用意し、さらに矢吹図書館所有の製図用刷毛4種と合わせて、作業メンバーがそれぞれを回して使用した評価結果を集約しました。

作業は6月30日午前10時半から午後6時、7月1日午前9時半から午後3時（千葉地域の3名は午後2時）まで、昼食時間を挟んで50分作業し10分休憩というペースで行いましたが、図書を1ページずつ

■被災地には、様々な業界から、同業者への支援が見られます。しかし、図書館の者が図書館の被災に見出す思いは特別だと思います。＜無残に破壊された記憶装置＞…私たち図書館の原点が想起されるのです■

めぐりながらの作業なので、なかなか捗りません。結局2日間で三四〇冊程度を処理できただけでした。支援メンバーは残りの全ての図書の処理も支援したいという強い思いを抱き、矢吹町図書館に打診してもらいました。町当局の判断を経て回答があるとのことです。

東日本大震災の被災地について、ささやかな寄付金以外に支援のきっかけがなく忸怩たる思いでしたが、おかげさまでこのたびほんの僅かではありませんが、体を使つての参加ができたことをありがたく感じています。

## 多摩デポブックレット

### 第5号 発行

## 『図書館のこと』

### 保存のこと

——編集の記  
事務局 雨谷

多摩デポの総会時には、毎回示唆に富むお話をしてくださる講師に恵まれます。

ブックレット第5号では、あえて二回分のお話を一冊にしてみました。竹内愨先生の包括的なお話に、梅沢幸平さんの滋賀県での具体的な仕事のお話をあわせたものです。



「一冊の本を廃棄するのはやむを得ないとしても、その中の役に立つものは図書館に残すのだ、という図書館員としての強い意志を持ちたいということですね。そういう意志と、そういう部分を見つめる目を持つことは、資料選択に役立つとともに、30年後に対応する力になるのではないのでしょうか。」(本文より)は、図書館員への励ましであり戒めでもあります。紹介していただいた滋賀県の図書館活動で、このことが良く読み取れるのではないのでしょうか。

ブックレット第5号は、5月の総会時に受け取れなかった会員には『多摩デポ通信』と一緒に1冊無料で送付しています。定価735円(税込)ですが、事務局に直接申し込んでくだされば、送料込み700円です。周りの方々にも、どうぞ広めてください。

## お詫び

発行直後、校正ミスを見しました。申し訳ありませんが、会員の皆さまは、この『多摩デポ通信19号』に同封した正誤表を貼付してください。

○61ページ4行

×粉川哲夫↓○粉川忠

## 多摩デポブックレット第5号

「図書館のこと、保存のこと-図書館の歩む道」竹内愨氏 (第3回総会講演)

「図書館の役割と資料保存-滋賀県の場合-」梅沢幸平氏 (第2回総会講演)

二つの講演を合冊にして発行、会員には配布

# 全国図書館大会 資料保存分科会

## へのお誘い

今年の全国図書館大会は10月13日から14日にかけて多摩地域で行われます。14日の「第11分科会・資料保存」の企画・運営を「多摩デポ」が引き受けています。分科会は府中駅北口そばの府中グリーンプラザを会場に「災害と資料保存」のテーマで行われます。阪神・淡路大震災が起きた1995年に、同テーマで分科会が開催されましたが、奇しくもまた、甚大な災害、特に「津波そして原発」という全く未経験の事態に直面した年に開催する分科会となりました。大災害の問題は様々な場面で取り上げられると思います。〈非常時に図書館の果たす役割やサービス〉の議論は

他に譲り、私たちは「資料保存」の観点から図書館の役割と災害への対応について考えたいと思います。しかし出来るだけ「多摩デポ」らしく。

専門家想定を遙かに超えた巨大な津波と「想定することさえ在り得ない」と言われてきた原発破壊は、甚大な被害をもたらしています。「過去に学び、現在を考え、未来を設計する」という人間の特質を補完するはずの図書館は、どう備えれば災害を乗り越えていくことが出来るのでしょうか。

本分科会では、被災した図書館のコレクションを再構築するための準備や活動、建築・設備面からみた保存への備え、また地域資料等を分散して保存することの意義について考えてみたい。大量の水濡れ資料への応急処置についてのワークショップも開催します。

### ●内容

- 1 資料保存この一年レビュー・・・資料保存委員会・中田孝信氏
  - 2 基調講演「災害と資料保存、図書館の役割(案)」東京文書救援隊・木部徹氏
  - 3 被災地報告「宮城県図書館から」・・・宮城県図書館・熊谷慎一郎氏
  - 4 報告
- ① 東日本大震災の被災地を巡って・・・日図協施設委員・梅澤幸平氏
  - ② 東日本大震災における図書館の惨状と対策(建築・設備面から)・・・日図協施設委員・川島宏氏
  - ③ 「共同保存図書館・多摩」からのアピール・・・NPO法人 共同保存図書館・多摩
  - ④ ワークショップ「水濡れなどへの応急処置について」・・・東京文書救援隊

### ★会の現勢

2011年7月1日

現在

### ●会員

(個人会員103名)  
(団体会員3団体)

### ●賛助会員

(個人43名)  
(団体2団体)

総会以降、続々会費を振り込んでいただいています。が、まだの方は、入金を、よろしく願います。

### ●年会費

正会員(個人・団体)

五千元

賛助会員一口 二千元  
(個人一口団体五口以上)